

平成22年 第17回
教育委員会臨時会会議録

平成22年9月28日（火）

港区教育委員会

港区教育委員会会議録

第2310号

平成22年第17回臨時会

日 時 平成22年9月28日(火) 午前10時00分 開会
場 所 教育委員会室

「出席委員」	委 員 長	南 條 弘 至
	委員長職務代理者	半 田 吉 恵
	委 員	小 島 洋 祐
	教 育 長	高 橋 良 祐

「欠席委員」	委 員	澤 孝一郎
--------	-----	-------

「説明のため出席した事務局職員」	次 長	小柳津 明
	庶務課長	伊 藤 康 博
	教育政策担当課長	山 本 隆 司
	学校施設計画担当課長	村 上 利 雄
	学 務 課 長	新 宮 弘 章
	生涯学習推進課長	大 竹 悦 子
	図書・文化財課長	沼 倉 賢 司
	指 導 室 長	加 藤 敦 彦

「書 記」	庶務課庶務係長	岡 田 圭 子
	庶務課庶務係	遠 藤 由 香 里

「議題等」

日程第1 請願

私立幼稚園保護者の教育費負担軽減に関する請願

日程第2 審議事項

議案第56号 港区教育委員会事務局一般職員の退職について(秘密会)

「開 会」

○南條委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまから、平成22年第17回港区教育委員会臨時会を開催いたします。

本日は、澤委員から所用により欠席とのご連絡をいただいておりますので、ご承知おきください。

それでは、日程に入ります。

(午前10時00分)

「会議録署名委員」

○南條委員長 本日の署名委員は小島委員にお願いいたします。

第1 請願

1 私立幼稚園保護者の教育費負担軽減に関する請願

○南條委員長 日程第1、請願に入ります。

平成22年9月8日付で請願が提出され、同日受理されました。本日は、受理しました請願について趣旨説明の希望がございましたので、お伺いしたいと思います。

趣旨説明を受ける前に、庶務課長から報告を受けたいと思います。よろしくお願ひします。

○庶務課長 ただいま委員長からご案内がございましたとおり、平成22年9月8日付で請願が提出されました。教育委員会資料ナンバー1をご覧くださいと思います。

「私立幼稚園保護者の教育費負担軽減に関する請願」でございますが、その請願につきまして、書記に請願書の要約を朗読させますので、よろしくお願ひいたします。

○書記

私立幼稚園保護者の教育費負担軽減に関する請願。

趣旨 私立幼稚園保護者の教育費負担を軽減し、公私立幼稚園格差解消のためにも、平成23年度の助成金のさらなる増額をお願いいたします。

理由 港区においては、昨今の厳しい財政状況の中、平成22年度には保護者補助金の助成にご配慮いただき誠にありがとうございました。

しかしながら、平成22年度の区内私立幼稚園保護者の教育費平均負担額は月額3万7,377円で、公立幼稚園保護者負担額との格差は依然月3万2,568円となっております。是非とも私立幼稚園保護者の重き負担をご理解いただき、保育料の額にとらわれるのではなく各幼稚園それぞれの特色ある保育内容や子供の個性に合わせて幼稚園を選択できるよう全保護者に対し、格差解消に向けてご尽力賜りますよう切望いたします。

○南條委員長 それでは、請願者を代表しまして、小林恵美さんから趣旨及び補足説明を受けることにいたします。

では、請願者の方、こちらの方へ。どうぞおかけください。

それでは、説明をお願いいたします。

○**請願者代表（小林）** おはようございます。港区私立幼稚園PTA連合会会長の小林恵美と申します。よろしくお願いいたします。

港区におかれましては、日ごろより私立幼稚園並びに保護者に対し、教育費の助成を初めさまざまなご支援をいただいておりますこと、PTAを代表いたしまして心よりお礼申し上げます。また、港区私立幼稚園PTA連合会が所属しております、東京都私立幼稚園PTA連合会という組織において、保護者負担軽減事業費補助の拡充に関する要望書を9月7日付で東京都知事あてに提出しておりますが、東京都の補助を港区内の保護者がほとんど受けられず、区の助成金を受けているのが情勢でございます。昨今の厳しい経済情勢にかかわらず、区の補助金制度は本当にありがたく重ねて感謝申し上げます。

ただいま読み上げていただきました私どもの請願文に関する補足説明をさせていただきます。私どもが算出したしました本年度の港区私立幼稚園の平均保育料は、月額3万7,377円となっております。これは、年度始めに明らかになっている保育費用をもとに計算しているものでございます。ただし、各園において年度途中でこの保育料に含まれないさまざまな経費がかかっているのも事実でございます。実際の保護者の負担はこの額以上でございます。また、昨今の経済不況を受け、保育料が値上りした園、またその予定のある園、教材費など新たな費用が付加された園があるのが現状でございます。

したがいまして、保護者の抱えている負担を十分にご理解いただき、その負担を軽減していただきたくお願い申し上げます。

平成10年12月にさかのぼり、港区と私立幼稚園連合会とは、格差解消に向けた国民調査をしており、またその後も港区教育委員会が格差解消に向けて前向きに取り組んでいただいているものと認識しております。そして、今年度は昨年を超える1万6,100名前後の署名が集まり、この署名の重みは皆様の関心の高さをあらわしているものと確信しております。ぜひとも、今後もさらなる補助金の増額並びに格差解消に向けた飛躍的な進展を切望いたします。

港区には特色ある私立幼稚園がたくさんございます。親といたしましては、次世代を担う子どもたちの人格形成の大切な幼児期に、保育料の額にとらわれず、保育内容や子どもの個性にあった幼稚園を、公立幼稚園、私立幼稚園にかかわらず自由に選択できるよう、公的支援の格差解消と保護者の負担の解消を、私立幼稚園保護者を代表いたしまして切にお願いする次第でございます。何とぞよろしくお願いいたします。

以上で、補足説明を終わります。

○**南條委員長** 説明が終わりました。趣旨説明者に内容確認等の質問がありましたら、お願いいたします。

○**小島委員** 趣旨説明のお話を聞いていて、公立幼稚園のお子さんも私立幼稚園のお子さんと同じ港区民のお子さんで、そういう意味では、区が私立幼稚園のお子さんたちにできる範囲の補助というか援助をしてあげたいという気持ちは、我々も皆さんと同じなのです。やっぱり幼児教育というのは非常に大切なことで、特に国も幼児教育には今非常に力を入れております。そういう意味で、

港区の私立幼稚園の保育のレベルがさらにアップするという事は、我々教育委員会としても望んでいるところですので、皆様方のこういう請願に対してはできるだけお答えしたいという気持ちは持っております。

ただ、行政はいろいろな財政、収入等がありますので、財政状況も考えなくては行けないし、また、教育委員会以外に区長部局では保育園とかいろいろな施設等を持っていますので、そちらの財政というのがありますから、その全体のバランス等を考えなければいけないので、皆様からのご要望に全て答えるというわけにもいかない面があります。それでもこの何年、徐々に少しずつ、特に昨年度、保護者の皆さんの収入にかかわらず補助金を出すと。今では保護者の皆様の収入の低い人よりも収入の多い人の方が区から補助をより多く受けている状況になっているのです。そういうことで、教育委員会としてもできる範囲のことはやっているつもりなのですが、ただ、大幅に一挙にということとは非常に難しいと思っております。

皆様方としてはどの程度までになるとご満足いただけるのでしょうか。

○請願者代表（小林） 私どものPTA連合会、当社の発足当時、昭和49年から、そのときは半分までということで運動を続けてきたかと思えますけれども、さまざまな過程の中で、歴史の過程の中で、その辺もしたと私は認識しております。

2年前ですか。所得制限も撤廃していただきまして、非常に保護者ともどもありがたく思っておりますけれども、その約束の過程の中で、PTA連合会一丸として「公私格差解消」ということで、オーバーな表現ですが、私どもそれを信じて、確信して、今後もやっていきたいと思っております。どの程度かというのはアンケートをとったわけではありませんけれども、そうした動きに向けて一丸となっております。

○小島委員 「公私格差解消」ということなのですが、これもまたなかなか難しい問題があると思います。公立幼稚園のよってあるべき姿と私立幼稚園のよってあるべき姿はまた違うわけです。私立幼稚園は建学の精神というか、幼稚園創立の目的に従って、それに賛同した方が皆さん集まってくるというのが基本だと思います。そういう点から考えると、少々の負担が多くても自分の子どもはこういう自分の賛同する立派な幼稚園に入りたいということなのです。ある程度公立幼稚園よりも負担が大きくなる、これはやむを得ないところだと思うので、そこら辺がどのように認識されているのかと。また、全部補助金でと、何しろ補助金をもっともっとというようなお話が多いものですから、そこら辺は皆さん、自分のお子さんをこういう幼稚園の教育目標、教育理念に賛同して行かれているわけですね。

○請願者代表（小林） まず、親としてももちろん最優先いたしましたのが、各園の教育内容、また伝統、その園の園長先生ご自身のお考え、いろいろな宗教ですとか、さまざまな理由があると思います。親といたしまして子どもに最良の教育というのが恐らく皆さん思っています。その上で一番に幼稚園選びをする、ある程度短期間の間に幼稚園の教育内容を恐らくきっちり調べて、保育料に関しては大枠でとらえまして、入園する前に入学金が大体10万円なのか、1万円なのか、5万円なのか、数十万円なのか、保育料月々何万円単位、それ以外に経費がかかるのが数千円単位とか。

それを全て表にして初年度一括でかかるものなのか、年間を通してかかるものなのか、毎月かかるものなのか、学期ごとにかかるものか、それを正直全てを理解しながら生活費とか計算までやってきて入園を決めたというわけではなく、それはそこで無理をして、どうしてもその幼稚園に通いたい、我が子のために入れたいという気持ちが強い親も、私の中では多いと認識しております。そこで、入ってみてやはり現実との照らし合わせもありまして、そこで署名という形でもちかけると皆さん賛同していただいているのではないかと考えています。

○小島委員 趣旨説明の請願の理由のところ、全ての人が収入にとらわれることなく、行きたい幼稚園に行けるように補助すべきだという趣旨がございましたよね。そういう趣旨と読んだのですが。請願の理由の一番最後のあたりで、「保育料の額にとらわれるのではなく、各幼稚園それぞれの特色ある保育内容や子どもの個性に合わせて幼稚園を選択できるよう全保護者に」——そうか、全保護者は……。そういう意味ですね。

○請願者代表（小林） 先ほど私が申し上げた魅力的な、どうしても行かせたい、高い保育料がお隣にある。遠いところに行くつか手の出る範囲に保育園があったとして、そこで隣にある幼稚園に行けず遠いところに行くという状況は……。

○小島委員 その隣は非常にいいのですか。

○請願者代表（小林） はい。無理してでも行かせたいと。

○小島委員 あと、答えられる範囲で結構ですが、皆さん、公立幼稚園に行かせようかというお考えは持ったことはありますか。初めから私立幼稚園をご希望ですか。

○請願者代表（小林） 全くないとは言えません。選ぶ段階で、すごく魅力的な公立幼稚園が近所に多数あるかと思えます。地域の方がやっぱりいらして、非常に積極的にお母さんが参加してきて、うわさも聞いておりますけれども、そこでまたさらなる特色をもって子どもの幼稚園を決める中で、私の台場の自然環境、教育、いい地域にいるよと訴えかけているところが魅力的。園長先生、歴史が代々受け継がれて、そうやって残されてきたことも非常に感激しました。

○小島委員 その各私立のそれぞれのよって立つ精神とか特色を比較されているわけですね。

○請願者代表（小林） 比べた上で検討させてもらいました。

また、転勤等の理由で近隣の公立幼稚園に入れたということで、非常にありがたく思っている方ももちろんいらっしゃいます。

○小島委員 私立は皆さん3年保育なのですよね。公立の場合はほとんど2年保育で、今のアンケートを見ますと、ほとんど3年保育を希望しているのです。3年保育を希望している人がほとんどで、区立幼稚園が2年保育しかしていないということで、そういう事情で私立幼稚園にみんな行ってしまわないか。ちょっとひがみかもしれませんが、そういう3年保育、2年保育というのは選択に当たっては、どうだったのでしょうか。

○請願者代表（小林） それもご家庭によるかと思えます。また、年次とかお子さんの年齢にもよるかと思えますけれども、他区の2年保育を強く希望して、港区の3年保育に行かないお母様ももちろんいらっしゃるということで、私も認識しています。例えば附属の大学までということで、1

年後、お待ちになって行かれるという方も聞いておりますので、選択する上で、3年保育のニーズが恐らく高いということなのかもしれませんけれども、2年保育でもニーズはあるかと思ひますし、今ある公立を全て3年保育化にいたしますと、例えば長期的に見まして5年、10年後にどんな状況になってしまうのかということも……。今回の請願には全く関係ないのですけれども、そんなことも考えさせられてしまう。

○小島委員 我々は区立幼稚園、できれば全幼稚園を3年保育にしたいと思ひているのですが、経済状態が5年後どうなるか、いろいろ難しい面ばかりですが、少なくとも当分の間は公立幼稚園が3年保育になったとしても、私立幼稚園の経営を圧迫することはほとんどないのではと思ひているのですが、そこは意見の対立、認識の相違があると思ひます。

区としては、私立幼稚園側に公立幼稚園の3年保育の園を拡充したいという点について、私立幼稚園側の保護者の皆様方にもそういう意見があるということ、この場でこの際認識していただきたいと思ひておりますので、その点を理解しながらお考えいただければと思ひます。

一番最初に言ったように、私立幼稚園のお子さん、港区の保護者のお子さんですので、できるだけ補助をして、みんなでレベルの高い保育ができるようにということは望んでおります。公私立お互いに共存共栄ということでやっていきたいと思ひます。こちらからもよろしくお願ひしたいと思ひます。

私の方は以上です。

○請願者代表（小林） よろしくお願ひします。

○南條委員長 よろしいですか。ほかにございませんか。

○半田委員 私は娘が2人おまして、2人とも実は私立の幼稚園に行っていたのです。

地元には当然いい幼稚園があるのですが、やっぱりおっしゃるとおり特色のある教育を受けさせたくてそこを選んだのです。ですから、それに当たっては、入学金がお高いとか、月々の保育料がお高いということはある程度覚悟して、年間通していくらだろうと計算した上で、自分の意思で希望する特色ある教育をしてくださるという期待もあって私立幼稚園を選びました。だけど、そのときに補助金があると知らなくて、思ひがけず頂けてよかったという、逆にそういうパターンでした。当時は普通のお母さんでしたので、補助金をいただけるのだと、しかも港区はほかの区よりもちょっと高いので嬉しかったのを覚えています。千代田区とか他区は1,000円とかの中で、港区はこんなに補助金を出してくれるということは、すごくラッキーと逆に思ったのです。共栄共存ということ、頭を置いて、どうしたら一番お互いがベターなのかということ、子どもたちが伸びていくことが目的にして、そこをずらさないでどうしたらいいかということ、また考えたいと思ひるので、そういった歩み寄りを皆さん、できないでしょうか。

○請願者代表（小林） わかりますけれども……。

○小島委員 逆に言うと、私立幼稚園の入学案内のパンフレットに公的な補助金がこのくらいありますよなどと出ているのですか。この資料の案内に。

○請願者代表（小林） そういう意味ではパンフレットにはなかった。内容で……。まずは、パン

フレットの中でもある程度お金の部分は最後の方で、あとは教育内容の方を表示して、当初はピックアップするために……とか資料の段階では教育内容だけを絞っていく。その中で計画的ながら入学時に一括でなのか、1回限りだとか、大枠でとらえるということで決めたりとか……。

○教育長 おっしゃることは非常によく理解できて、私立幼稚園、公立幼稚園、あわせて港区の幼児教育を担うということが、幼児教育振興アクションプログラムの中でもうたわれていて、これは公私立ともどもの意義が出ています。学識経験者も含めて協議をし、そしてつくった内容ですので、その方法でやる。したがって、3年保育も当然区民が望んでいることですから、公立の3年保育も進めていかなければならない。

教育というのは子どもに対して教育をするのであって、それが補助金の枠に左右されてできる、できないとなるのは、それは教育の本質にかかわる、本質とは全く異なる問題なので、ここは切り分けて考える必要がある。

したがって、小林さんもここに書かれているとおり、保育料の額にとらわれずに私立幼稚園を選択されたのですね。そういうことですよ。自分のお子さんの状況を一番把握しているのは親御さんですから。そして、このかわいい子どもたちをどう育てていったらいいのかという選択の中で、ふさわしい幼稚園を自分で選択したということなので、今の私立幼稚園の保護者の皆様は、保育料にかかわらず選択をしているということだと思いのです。だから、ここに書かれている補助金の額にとられるのではなくて、選択できるようにしてほしいということなので、そこはそのとおりだと思うのだけれども、それは今でも選択をできていると。これからもそうであろうと私は思います。

ですから、区は区でできる範囲の中で、2分の1という約束を全保護者に対して実施してきた。これが今までの経緯だということで、ただ私立の小学校、中学校、高校、大学もそうだけれども、公立と私立が保育料あるいは授業料、それで格差が解消するはずがない。それは少しでも縮めようというのは理解できることだけれども、そこら辺はどの辺で折り合っていくのかということ。しかし、皆さんのことは区としても、これはしっかりご支援をしていかなければならない。そう思っておりますので、また今後とも皆さんとともに港区の子どもたちの未来をしっかりとつくるために教育を一緒に行っていきたいと、そのように思いますので、よろしくお願いします。

○小島委員 せっかくおいでいただいたのですから、もう1人の方も補足説明がありましたらどうぞ。

○請願者代表（吉川） 副会長の吉川と申します。よろしくお願いたします。

私は子どもが3人おまして、3番目の子どもで港区に引っ越してきたのですけれども、引っ越してきた当時、ちょうど幼稚園に入る募集期間のときで、芝浦地区に引っ越してまいりました。あの辺では世帯数も大変多くなりまして、目の前にこども園という幼保一体化の区で賄っている保育施設があります。こちらの方に興味がありましてお伺いしましたところ、予約で何カ月待ちだという、少しあいまいなお返事をいただきまして、そうしますとやはり近くの芝浦幼稚園ですとか、私立の幼稚園を見学させていただきまして、やはり区の方からも皆さんあいまいなお返事をいただい

たのです。それで、私立の幼稚園に伺いましたところ、子どもに対する熱心な前向きな姿勢が見えまして、私立幼稚園に入らせていただいているのですけれども、そういう事情も確かに近辺ではありまして、声も上がっております。

○教育長 あいまいな回答だったのですか。

○請願者代表（吉川） 何と言うのでしょうか。予約で何カ月待ちだと。どのくらい待ったら入れるのかとか、やはり子どもを持つ親としては、その辺をはっきり知りたい部分もありましたし、途中で入園が許可になったと言われても、ほかの幼稚園にもう決めていたということが、ここ最近私もお母さん方から聞いております。

○教育長 芝浦幼稚園はあいていたはずです。

○請願者代表（吉川） あのと、何か施設を拡充するか何かで工事をなさっていたと。

○小島委員 小学校は隣で工事をやっています。

○教育長 でも、余り影響ない。

○南條委員長 ほかにございますか。では、この案件はこれでよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○南條委員長 請願者の方、どうもありがとうございました。

私立幼稚園保護者の教育費負担軽減に当たりましては、港区教育委員会としましては、次世代を担う子どもたちの教育の充実につながるものと確信しております。適切に対応していきたいと思っております。

請願者の方、どうもお疲れさまでございました。

第2 審議事項

議案第56号 港区教育委員会事務局一般職員の退職について（秘密会）

○南條委員長 それでは、日程第2、審議事項に入ります。

議案第56号「港区教育委員会事務局一般職員の退職について」。この議案につきましては人事案件であり、個人情報が含まれておりますので秘密会に入りたいと思いますが、ご異議ございますか。

（異議なし）

○南條委員長 それでは、これより秘密会に入ります。

傍聴の方は、いらっしやいませんね。本日はこの議題が最後の案件となりますので、よろしくお願いたします。

それでは、資料番号を付してあります議案かがみを除いて、資料は審議終了後回収いたしますので、よろしくお願いたします。

（秘密会）

○南條委員長 以上を持ちまして秘密会を終了いたします。本日予定しております会議案件は全て終了いたしました。庶務課長、その他ございますでしょうか。

○庶務課長 特にございませぬ。

○南條委員長 分かりました。次回は10月12日午前10時からの予定でございます。

なお、本日はこの後、芝浦小学校の視察を予定しております。正面玄関に10時40分集合ということでよろしく願いいたします。

(午前10時31分)

会議録署名人

港区教育委員会委員長職務代理者 半田 吉恵

港区教育委員会委員 小島 洋祐